

4km というショートコースながら、巧みなコース設定。

「丹波自然運動公園」コース 京都府
JOA 公認 No.790 4.0km 33 ポスト

パーマコース・ダブルヘッダー

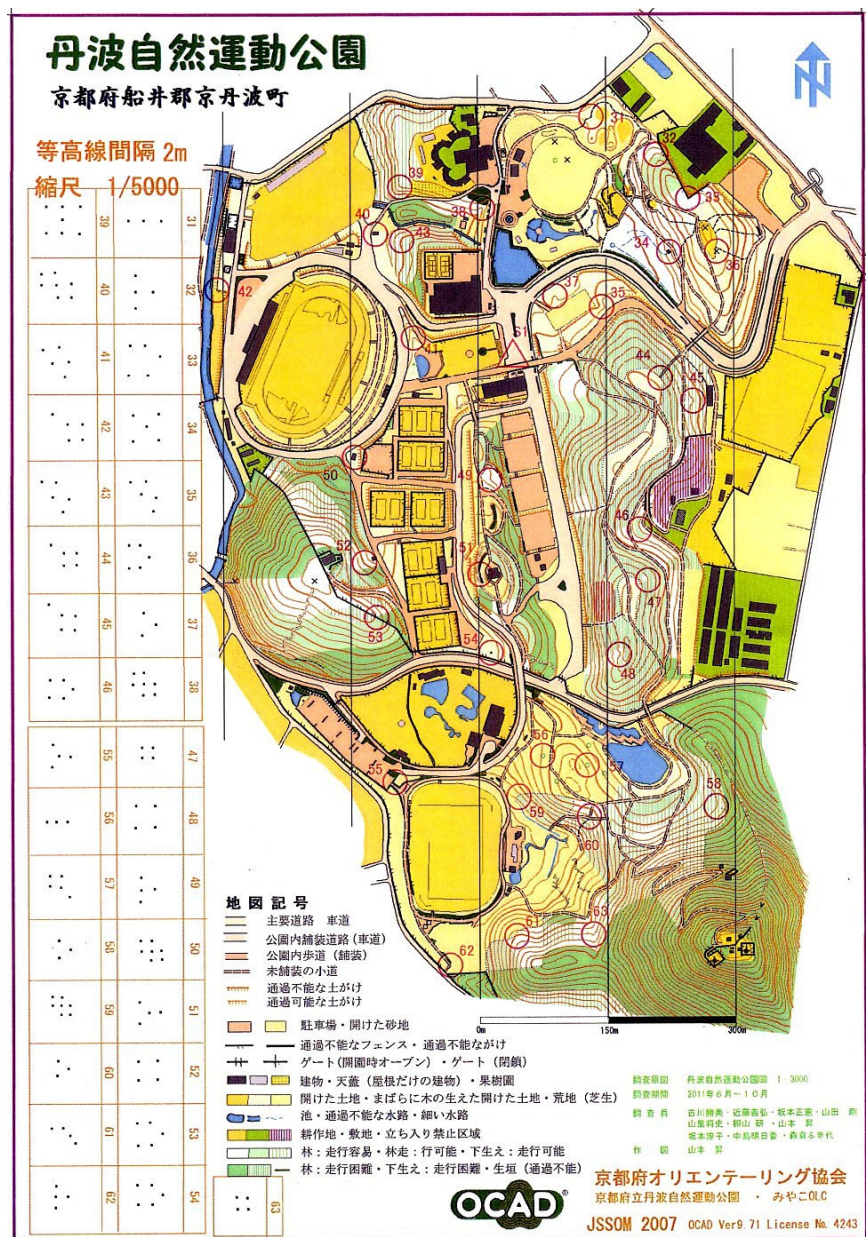
前回の太陽が丘コースに続き、同じく新設された丹波自然運動公園コースも回ってしまおうと、宇治や京都観光もそっちのけで京丹波町へ向かいます。宇治駅には戻らず、太陽が丘から今度は近鉄大久保駅を経由して京都に。園部駅までの区間を「嵯峨野線」と呼ばれる JR 山陰本線に乗り換え、最寄の園部駅を目指します。これから乗る JR バスは、人影まばらな東口に停留所が置かれています。表口の雰囲気のある西口についつい向かい勝ちですので、気をつけましょう。14 時 5 分発の福知山行きバスに乗り込み、自然運動公園前というバス停で下車すると、スタート地点の公園センターまでは歩いて 5 分ほど。バスによってはこの公園センター前まで乗り入れてきます。

99 年 9 月に訪れた丹波町丹波高原コースも現役でがんばっており、体育館前にしっかり整備された案内板が立っていました。

一方、新設されたコースのスタート地点は自由に設定可ということもあり、案内板はありません。公園センターを訪ねマップを求めると、訪問者が少ないのか、対応にお困りの様子。カラーコピーして手渡すことにしているようで、厚手の用紙を裁断し、コピー機にセットして原本を複製してくれます。手渡されたものを見ると、初心者コース、中級者コース、上級者コースとそれぞれ書かれた異なる 3 種のもの。しかし 33 箇所あるポスト数にはいずれも足りず、他にあるはずだと改めて確認をお願いすると、ようやく全ポストを印刷したのを見つけてくれ、事なきを得ました。

パンチ方式の新コース

太陽が丘コース同様、パンチ式のコントロールが設置されているため、従来なら記号を転記する欄にパンチ穴を開けていくことになります。マスターマップには予めパンチパターンまで記されている過保護さには少々脱力を覚



えますが…。

A4 判の用紙に 1:5,000 という大縮尺の狭いエリアに設置された 33 箇所のコントロールを次々にチェックしていくコースで、園内ながら競技性の強いセッティングになっています。

テンポよいコース

15 時 8 分にスタート。1 時間 36 分の全行程です。スタート地点の設定は自由ということにはなっているものの、マスターマップには三角印が公園センター前に記されています。JOA のコース

名は「スコアオリエンテーリングコース」とされていますが、実態はフリーポイントコースのため、回り順は任意です。私は時計回りにひと巡りすることとし、センターに最も近い 37 番から回り始めます。スタートしてわずか 1 分後には到達し、ゲートボール場を挟んで設置された 35 番も瞬間移動のごとく発見。開始 2 分で 2 箇所のチェックが完了というテンポ感です。

小屋の脇の 34 番、こどもの広場近くにある最北端の 31 番を見つけ、最初の

丘へ。まだらな竹林の 32 番、ピーク手前のフェンス角の 33 番、自治の木広場の 36 番と、小さな丘ながら 200m ほどの間に 3 箇所も設置されています。

橋を渡ると南北に伸びる 2 つ目の丘。まずは出戻りで 44 番を確認した後、運動場を見渡すテラスにある 45 番を経由して竹柵に隔てられた竹林沿いを進みます。道の曲がりの方で笹にすっぽり埋もれた 46 番を難なく見つけると、斜面を登り 47 番、尾根伝いに進んで 48 番と、道のない面白い区間が続きます。途中で丹波高原コースの第 1 ポストがあるのですが、踏破から 13 年も経過した今も立派に整備されているのは嬉しい限りです。



花崗山山麓を巡るコース

少年時代と出会えるコース

ショウブ池に続く菖蒲橋を渡って公園の南端エリアへと入っていきます。ここには 9 つのコントロールがあり、様々な回り方が考えられるところです。マップの最高地点である花崗山に続く遊歩道から沢を詰めた奥にある 58 番から開始し、山北麓の 63 番、コンタリングで 61 番とたどって最南端の 62 番へと到達します。ここでのトピックは 63 番の手前でクワガタを発見したこと。午前中に回った太陽が丘でのナナフシに続き、少年時代の気持ちを呼び覚ましてくれる昆虫との遭遇でした。



クワガタ発見！

球技場をひとめぐりする途中、駐車場への階段横で 55 番を確認し、芝生の広がるピクニックの丘を目指して 59 番、パンチ台の横で雨蛙がたたずむ 60 番を通過。遊歩道の階段を上がって尾根に出ると、爽快さ満点のオープンスペースが広がっています。遮るものが何もない芝生の中に立つ木立の脇に 57 番と 56 番は設置されています。ちょうど芝刈りの真っ最中で、芝を刈った後の独特のいい香りに一帯は包まれていました。



気分爽快ピクニックの丘

南端エリアを終了し、三度橋を渡ると 16 面のテニスコートが広がるエリアに入ります。ここにある 6 箇所と、公園センター近くの 1 箇所が次のターゲットです。橋を渡り終えてすぐに西側に下り、岩の横で 54 番、マップ上の西端の丘にある 53 番と 52 番をチェック。斜面をよじのぼる大男へテニスコート周辺の人々が訝しげな視線を投げかけてくれますが、PC めぐりでは付き物。動じることなく次々と目的を果たしていきます。

テニスコートの真っ只中を突っ切り、これまた斜面を登って丹波天文館前で 51 番を発見します。

北に下りながら、右手に少々入ったところに立つ 49 番も漏らさず見つけ、陸上競技場の周回道路の西端にある 41 番へ。

ここでは園内整備を担当する作業員の方々に声をかけられ、オリエンタリングを説明することに。バスの時間も迫り、駆け足での解説だったため、あまり理解をしてくれた様子もないまま程々に切り上げて、陸上競技場の南にある 50 番へ向かいます。建物の裏で確認すると、残りは 5 箇所です。



丹波天文館

パーマコースの常識が変わる

曾根川沿いの 42 番の発見後、体育館の北側に向かうと 40 番は驚きの光景が待ち構えています。なんとすぐ上に 43 番の姿が同時に目に飛び込んで来るのです。かつてスタート地点から第 1 ポストが目の前にあったコースはありましたが、ポスト間がこれほど近いコースは初体験。大縮尺のマップを使用しているコースならではの設定です。

道から僅かに入っている 39 番と 38 番もロスなく発見し、全 33 箇所終了です。10 分後、公園センター前まで乗り入れてくるバスが数名の乗客を乗せて定刻どおりやってきました。

この日回った 2 コースは、いずれも 4km というショートコースながら、巧みなコース設定もあり、踏破の楽しさが存分に味わえるものでした。従来の枠に囚われないこうしたコースの誕生は、先細りだった常設コースの利用を拡大するきっかけになるかもしれません。

翌日は京都東山の古寺めぐり。朱印帳片手に歩き回る姿は、地図を片手にポストを目指すオリエンティアにそっくりです。

(2012 年 6 月 23 日 踏破)
(大高竜亮)